

高知県における専門分野「がんにおける質の高い看護師育成事業」成果と今後の展望 —看護管理者の修了生へのサポートと活用状況—

高知赤十字病院
○古郡 夏子
高知大学医学部附属病院（緩和ケアチーム）
近藤 恵子
高知医療センター
池田 久乃
細木病院
豊田 邦江
高知女子大学
藤田 佐和

【目 的】

高知県で実施した過去2年の「がんにおける質の高い看護師育成事業」の成果と課題を、所属施設の看護管理者の研修修了生へのサポートと活用状況に焦点をあて明らかにし、今後の研修事業やがん看護の発展への示唆を得る。

【方 法】

平成19・20年度の研修修了生35名、所属施設の看護部長14名、所属部署の師長33名を対象に質問紙調査を実施し、量的・質的に分析した。所属施設の看護研究倫理審査会の承認を得て、文書にて研究の概要・倫理的配慮を説明し、無記名返送にて同意を得た。

【結 果】

修了生20名、看護部長9名、師長13名から返送があった（回収率51.2%）。

部長・師長の修了生へのサポートや取り組みと修了生の認知している組織のサポートをみると、共通した内容は＜学会・研修参加へのサポート＞＜専門の資格取得のための費用や勤務面での援助＞＜がん看護の専門性を活かせる部署・役割の提供＞であった。師長は＜がん看護教育を行う機会の提供＞をしていたが、修了生はサポートとは認識していなかった。修了生の期待には＜修了生間の交流の継続＞＜病院組織全体の取り組み＞等があった。

修了生を実際に活用しているのは約8割で、未活用の理由は＜時間的余裕のなさ＞＜修了生の人数の少なさ＞であった。活用内容は、部長は＜部署でのがん看護実践の推進者＞＜緩和ケアチームの推進者＞等、師長は＜がん看護知識の提供者＞＜高度ながん看護実践モデルの役割＞等であった。今後は、部長は＜がん看護の専門性の高い部署への配置＞＜CN資格者の育成＞等、師長は＜がん看護実践のリーダー＞＜スタッフへの指導者＞等の活用を考えていた。

【考 察】

管理者は修了生を現場での実践にリーダーとして全体の底上げに活用できると評価しており、研修の成果はあったと考える。修了生・管理者間でサポート内容の認識がずれないように、また組織として活用できる体制づくりの必要性が示唆された。

〔平成22年2月13・14日 日本がん看護学会（静岡）にて発表〕